

第13回宇宙安全保障部会 議事録

1. 日 時：平成28年5月30日（月）14:00～16:00

2. 場 所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、片岡部会長代理、折木委員、久保委員、鈴木委員、
山川委員

(2) 事務局

小宮宇宙開発戦略推進事務局長、佐伯宇宙開発戦略推進事務局審議官、
高見宇宙開発戦略推進事務局参事官、行松宇宙開発戦略推進事務局参事官、
松井宇宙開発戦略推進事務局参事官、守山宇宙開発戦略推進事務局参事官

(3) 説明者

防衛省 防衛政策局 戦略企画課長 末永 広

4. 議事次第

(1) 中間取りまとめに向けた論点について

(2) 宇宙状況監視体制について

(3) その他

5. 議 事

(1) 宇宙政策委員会中間取りまとめに向けた論点について

事務局より、資料に基づき、中間取りまとめの論点について、説明を行
った。当該説明を踏まえ、委員及び事務局から以下の意見・質問があった。

(以下、○意見等、●事務局の回答)

○宇宙産業ビジョンに関しては、いわゆる安保に投資したお金を、産業側にど
う回していくかという議論をどこまで深くやるかという話になると思うがい
かがか。(中須賀部会長)

●アメリカの状況もまさに、宇宙安保ができてから宇宙産業そのものが出てき
たところがありますので、安保部会においても、時期をみて、宇宙産業ビジ
ョンの議論状況を報告したいと考えている。(高見参事官)

○アメリカにおいてはDOD調達の方式がだいぶ変わったとのことだが、その

情報もあると（産業ビジョンの）議論のネタになると思う。（中須賀部会長）

- 米国の状況をいうと、小型衛星にシフトするとか、スペースXを使って打ち上げるといった変化があり、今まさに変化の過渡期である。安保から産業化という動きにおいては、米国は日本よりはるかに先に行っているが、常にそこは見ておかないといけないし、そういうものを視野に入れた産業ビジョンにしていくことが重要。（鈴木委員）
- 宇宙技術に関して、我が国独特の先端的な技術があるが、そういう観点で産業振興をするのはいいが、技術戦略というものも考えなければならず、あらゆる技術を出していくということではないと思う。（鈴木委員）
- 米国ではI T A Rが厳しくあって、そのため中小企業がどんどん潰れていった経緯があった。最近そのバランスを見直そうということで、輸出管理を少し緩めようとしていると聞いている。いずれにせよ、技術戦略は重要なポイントである。（高見参事官）

（２）宇宙状況監視体制について

防衛省より、参考資料に基づき、宇宙状況監視体制についての説明が行われた。当該説明を踏まえ、委員から以下の質問・意見等があった。（以下、○質問・意見等、●事務局等の回答）

- 資料にあるJ A X A、米国との情報共有の概要で、情報共有するには人的な交流が必要だと考えるが、具体的にどういう人的交流を行うのか、人的交流一般の計画は考えられているのか。（山川委員）
- J A X Aとの間では、いくつかの共通プロジェクトを通じて日常的に調整を行っているほか、相互の人事交流も行っている。また、防衛省の宇宙関係要員の育成のためには、米国の優れた知見を習得していくことが重要であり、例えば米国が主催するS S Aの多国間演習への参加や、米空軍が開設している宇宙業務課程等への要員派遣を行っている。また、S C W G（Space Cooperation Working Group）等の日米協議を通じながら、人的な関係の構築も図っている。（末永課長）
- 米国の動きとして、連邦航空局（F A A）にS S Aの権限を移管するという話があるが、このことが、我が国のS S Aにどのように影響を与えているのか。（鈴木委員）
- ご指摘の件については承知しているが、本件が我が国の宇宙状況監視につ

き、いかなる影響を与えるかについて確たることをお答えできる具体的な情報は持ち合わせていない。引き続き状況を注視したい。(末永課長)

○これまで軍中心でやってきたというフレームワークが変わってくるということは大きく、情報の公開の問題や、運用上の問題、また、結局どこまでF A AがJSpOCやJICSpOCに関わっていくのか等、色々なコンティンジェンシーに対応できるシナリオを作っていくことがまずは大事だと考える。(鈴木委員)

○どういうレベルのデータをやり取りするのかというのに興味があり、この位置にこういうものがいたという観測した結果のやり取りになるのか、あるいはそれをずっとしばらく見ることによって得られた日本としての軌道推定の結果を交流するのか。(中須賀部会長)

●当方としては資料中に記載したとおり、監視用センサーが取得した軌道情報の相互共有を日米間で実現したいと考えているが、共有する「軌道情報」の具体的内容については今後更に検討を深めたい。(末永課長)

○今後システム設計を進めていく中で、かなり複雑な要素が入ってくると思うが、システムの拡張性を今のうちから確保されることをお願いしたい。抗たん性も考え、代替システムや多国間協調のための接続を最初から考え、後戻りのないようにして欲しい。(片岡部会長代理)

●ご指摘の拡張性、抗たん性の点も踏まえて検討を進めたい。(末永課長)

○宇宙物体の監視にあたっては、事前に運用しているオペレーターから情報をもっていた方が、より確実に全体の状況把握ができる。米国ではComSpOCという民間組織の情報が政府と接続されているように、我が国においても日本の事業者が運用している衛星情報が必要になると思う。(山川委員)

●宇宙状況監視を効果的に実施するためには衛星運用者との協力は重要な要素であり、必要な検討を深めていきたい。(末永課長)

以 上